

令和 6 年度北海道芦別高等学校学校評価報告書

令和 7 年（2025 年）3 月 24 日

北海道教育委員会教育長 様

北海道芦別高等学校長

次のとおり令和 6 年度の学校評価について報告します。

1 本年度の目標

(1)主体的、対話的で深い学びを通して、知識・技能及び社会で生きる力を育む
(2)自己理解を深め、社会の有為な担い手となる進路実現に向けて、積極的に取り組む態度を育む
(3)多様性を尊重し、他者と協働することにより道徳心や自律心、創造性を養うとともに、自己指導能力を育む
(4)心身の健康の保持増進に努めるとともに、自他の健康安全に貢献できる態度を育む
(5)地域の伝統や文化に触れ、地域の人達と触れ合うなかで、地域を理解・尊重する態度を育む

2. 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・ICT は概ね活用できているが、効果的な活用方法を継続的に研修する必要がある ・評価に繋がる適切な振り返りとなるよう工夫が必要。 ・授業公開により、授業力の向上機会が増えた。	病気療養中の生徒への配信授業等、ICT を効果的に活用している様子が窺える。多様な生徒実態がある中で、授業の工夫と ICT 活用を継続してもらいたい。
改善方策	・ICT の活用については各自研修を行うことに加え、教務部 ICT 担当による校内研修を継続する。 ・定期的に授業公開を設定し、適切に授業改善を行えるようにする。 ・多様な生徒の実態に応じた授業研修の充実を図る。	
キャリア教育	・社会が求める人物像を掴み日常の指導に生かす必要がある。 ・より良い探究の在り方を生涯学習課と打ち合わせていく必要がある	大学や高等看護学院への指定校枠等、中学校との情報交換を密にし、芦別高校での進路実現を積極的に伝えて欲しい。
改善方策	・学校運営協議会やロータリークラブ等、地域の教育力を積極的に活用するとともに、企業ニーズや卒業後の就業状況の把握に努める。 ・日常の教育活動の在り方を、進路実現に向けて生徒が探究的に取り組めるよう工夫する。	
生徒指導	・規範意識を育む支援を継続して行う。 ・命の大切さ、他者を思いやる心の大切さ、多様性の尊重等、教育活動全般で取り上げる必要がある。 ・複数の地域活動に参加はしている	色々な生徒がいる中で、生徒指導においても苦労が伺える。今後も生徒に寄り添った指導をお願いしたい。また、地域で子ども達を育てるという意識を持つためにも、学校・保護者・地域が交流できる機会を増やし

	ものの、主体的な参加にまでは至っていない。	て欲しい。
改善方策	・生徒の規範意識が向上する「校則の見直し」を生徒主体で行っていく。また、学校・保護者・地域が関わる「校則見直し」の取組としていく。 ・命の大切さや多様性を尊重する取組を行い、いじめやトラブルを見逃さない組織的対応を実践していく。 ・目的や評価規準を理解し、適切に振り返ることで、達成感や自己有用感を得られる行事を通して、自主的な地域活動への参加に繋げる。	
健康・安全指導	・SC との全員面談等、適切に活用されている。 ・清掃の取組を見直したことで、環境美化の意識が向上した。 ・社会や生徒状況により、外部講師や内容を吟味していく必要がある。	生徒指導同様、苦労があると思うが、環境整備・美化の意識は、社会に出て当然身に付いているべき能力なので、引き続き寄り添った指導をお願いしたい。
改善方策	・限られた回数・時間の中での効果的な SC の活用法を探っていく。 ・清掃方法を定着させ、校内はもちろん校外でも環境保全を意識した行動が取れるよう環境美化意識を育成する。	
組織運営	・部長、主任を中心に組織的に教育活動を行うことができている。 ・報・連・相が適切に行われ、弱みの共有ができている。 ・各教育活動において、評価規準に基づく評価を引き続き行っていく。	教職員数が減少し、職員ひとり当たりの負担は大きくなると思うが、生徒が充実した学校生活を送れるように、学校運営を行っていただきたい。
改善方策	・目的や方針を明確化し、業務の見直しや効率化を図る。 ・学校運営協議会等、外部の声を取り入れ、魅力ある学校づくりを推進する。 ・学校課題を教職員が自分事と捉え、改善に向け協働して取り組む事で組織力の向上を図る。	
信頼される学校づくり	・授業公開により意見を交換できる機会が増えた。 ・小学校への出前授業を行うことができた。今後も継続していく。 ・情報発信は概ねできている。タイムリーな発信を今後も継続する。	芦高だよりの全戸配布は高校の教育活動を知る良いきっかけになったと思われる。今後も教育活動の日常的な発信を継続してもらいたい。
改善方策	・学校運営協議会や市内小・中学校との連携を深め、学校課題を克服することで、芦別高校の取組や魅力の向上に生かしていく。 ・「全ての教職員が情報発信者である」の認識を強く持ち、時差のないタイムリーな情報発信を行っていく。	
教職員の資質向上	・服務規律は概ね遵守できている。引き続き信用の向上に努めていく。 ・勤務時間内の業務処理を心掛けているものの、定時退勤ができない事が少なからずあった。	学校の信用を失うことがないように業務を遂行していただきたい。
改善方策	・服務規律については、常に遵守した行動が取れるよう定期的に研修の機会を設けていく。 ・目的や方針を明確化し常に業務の見直しを行い、教育への情熱ややりがいを見失わずに、時間外勤務の縮減に繋がるよう努めていく。	

公表方法	・ P T A 総会などで保護者に公表 ・ 学校 H P での公表 ・ 学校運営協議会で公表
------	--

3. 添付資料

- (1) 令和 6 年度 学校評価（自己評価）集計【令和 6 年度自己評価書】
- (2) 令和 6 年度 学校評価の妥当性について（学校運営協議会委員アンケート）【学校関係者評価書】
- (3) 令和 6 年度 学校評価アンケート（保護者分）集計結果【保護者による学校評価書】